

## 洋書輸入協会会報

VOL. 22  
NO. 12

(通巻260号) 1988年12月

## 理事会報告

11月10日(木)

## (一) 10月分収支計算・予算対比表

11月4日に開催された総務委員会での検討にもとづき松井幸雄氏(丸善)の報告を承認した。

## (二) 消費税

11月7日大蔵省における関税局当局との話し合いについて栗原光輝氏(洋販)および平瀬昌氏(丸善)の報告があった。東京外郵便通関協議会で消費税についての話し合いが11月24日(木)2時から開催されることとなった。

## (三) 日米図書館会議

日本側参加者から報告のあったことが報告された。

## (四) 新年懇親会

毎年恒例の一月初めの新年懇親会について討議され、明年はとりやめとすることになった。

## (五) その他。

ぐって、この5月以来ロバート・M. バス、コールベルク・クレヴィス・ロバーツ、ロバート・マックスウェルなどの間で激烈な買収合戦が繰りひろげられてきたが、ついに決着がついた。ロバート・マックスウェルが、一株当たり90ドル25セント、総額で約26億ドルで同社を手中に収めたのである。

11月4日、買収決定後初の取締役会が開かれ、これまでマクミラン社の独立を守るべく必死の抵抗を試みてきたエドワード・P. エヴァンズ会長が退陣し、その地位にロバート・マックスウェルが就くことが決った。また、副会長にはロバート・マックスウェルの息子で29歳のケーヴィン・マックスウェルが就任した。

すでにイギリスでパーガモン社をはじめとする書籍出版のみならず、新聞、雑誌、放送、印刷などを含む巨大な情報産業複合体を築き上げたロバート・マックスウェルは、このマクミラン社の買収によってアメリカにも確固たる足場を得たわけである。この足場の上に立って、世界の10大情報産業の一角に喰い込むべく努力するとのこと。

なお一株当たり90.25ドルという買収金額は高すぎたようで、ロバート・マックスウェルはその資金を得るため、自分が所有しているヨーロッパ最大の印刷会社BPCCのほか、ミラー・グループの新聞の印刷を行っているBNPCを売り出すとのこと。

(Publishers Weekly, 11月18日号他より)

## 海外ニュース

## 「米マクミラン社買収さる」

アメリカの名門中の名門出版社 Macmillan Inc. をめ

理事会報告…………… 1  
海外ニュース…………… 1  
文化厚生委員会だより  
アジ釣り…………… 2

第一回将棋を楽しむ会…………… 2  
72回 第49回ゴルフコンペ…………… 2  
フォーティ・ラブ(テニス同好会)…………… 2  
お知らせ…………… 2

洋書輸入協会史(37)…………… 3  
よこめし・たてめし(11)…………… 5  
広告…………… 6

## アジ釣り

恒例の秋の釣大会は10月15日横須賀の走水港を定刻の8時に船、観音崎灯台が間近に見える辺りで糸を垂れました。天気は薄雲りで風もなく、絶好の釣り日和でしたが潮の工合が良くなかったのか、4時までねばりましたが釣果はかんばしくなく、最高で25～30センチ級の鰻が7尾、参加者10名の合計が35尾でした。入賞は— 1位：若松（南江堂）2位：中村（大洋交易）・今井（洋販）大物賞：今井（洋販）でした。（M. T.記）

## 第一回将棋を楽しむ会

11月18日第一回洋書輸入協会将棋を楽しむ会が、池袋の東亜ブック社を会場として開催されました。参加者13名、それぞれに個性が溢れ、10分間での終局もあり、また1時間も要する熱戦もあり、10時30分までの4時間あまりが、あっという間になってしまいました。

紀伊國屋の市川さん、3戦3勝はお見事。早指しの名人富士洋書の手塚さん、いつもの相手と違うのでいま一步の2勝3敗。マイブックの水上さんは、ゆっくり楽しまれて1勝2敗。太陽図書貿易の小松さんは2敗の後の3連勝で、とても気分が良さそうでした。紀伊國屋の湊さんは短時間で6局をこなし4勝2敗にとぎやかでした。三洋出版の武田さんと中岳さん、勝ちと負け数はほどほどの成績でした。（S. T.記）

## 72会 第49回ゴルフコンペ

どんなスポーツも、①に天気②に仲間と申します。10月20日横浜C.C.で開かれたコンペの日は、まさにこの格言通り素晴らしい天気でした。参加された20名のメンバーは、20代の女性から80代の男性までという多彩さ。

プレーの方は初参加の方を含めて皆さん顔見知りの方ばかり、和気あいあいの18ホールはあっという間でした。優勝されたミロブックの佐久間さん、フォームもマ

ナーも素晴らしいシングルプレイヤーとお見受けしました。準優勝は日賀の内山さん、今回は優勝をねらえるような安定したスコアでした。第三位は第一出版の佐々木さん、百ヤードのチップインバーディ、ハワイアン・オーブンの青木を思わせるような見せばを作って心にくい演出、とても初参加とは思えません。明治生れの80代でも規則正しい生活を送っていればゴルフを楽しめると身をもって示してくださったユサコの山川会長、頭が下がります。ショートのアビン賞に輝いたゴールドンブックの牧高うたえさん、とても嬉しそうでした。カリヤーマクミランの後藤さんもグロス97は立派でした。（S. T.記）

（成績表は紙面の都合で割愛させていただきます—会報委）

## フォーティ・ラブ（テニス同好会）

11月5～6日（土・日）の二日間、恒例の「秋の合宿」が、フォーティ・ラブの常宿である山中湖畔花月園をベースとして行われました。

会員の方々の予定がつまっていたためか、参加者10数名で、ほとんどがレギュラー・メンバーからなるグループでしたが、山中湖では初めてのクレーコートに全員堪能するまで練習試合を楽しみました。

初日の早朝は若干夜半の雨の後遺症があったものの、二日目はすばらしい富士の姿に見とれながら、さわやかな空気に森林浴を兼ねて爽快な汗を流してきました。

11月ともなれば、夕食は鍋料理の温かい湯気に包まれるの腕自慢も一味違った楽しさに溢れていました。多分参加できなかった会員の皆さんは、この報告を読まれて残念に思われることでしょう。

次回も楽しい合宿にしたいと思います。乞ご期待!!

（R. A.記）

## お知らせ

●株式会社南江堂の小立正彦氏は、10月に会長に就任され、後任の代表取締役社長には、小立淳氏が就任された。又、同社の洋書部門担当者として常務取締役高橋正男氏が選任された。

# 洋書輸入協会史 (37)

洋書輸入協会顧問 相良廣明

## 42 外国書籍及び定期刊行物の輸入承認に対する担保率引下げの運動（前号よりの続き）

### 42.9 官公署、教育機関以外の部分についての担保率（一般担保率）引下げ運動の経過（その2）

昭和29年（1954）の10、11、12月は、官公署、教育機関等の購入図書に関する輸入担保率が、25%より1%に引下げられたことの善後処置で過ぎ去り、その他の分野についての動きは年を越してから再開される。

昭和30年（1955）1月21日の同業会の新年懇談会では、司理事長より、官公署、教育機関以外の分野の担保率、即ち「一般担保率」の引下げの運動を更に推進すべく挨拶があった。その後も引き続き理事会を中心に運動を進めたが、その間に今一度陳情書を提出しようということとなり、原稿が推敲され、審議の上2月中に完成した。これは昭和29年7月に作製されたものと、内容はほぼ同一であるが、前文と後文がすっかり書き換えられている。この書き換えられた部分が、担保率引下げの運動の経過を示しているので、次に記載しておこう。

### 42.10 担保率引下げに関する陳情書（第3回目）

記

昭和30年2月 日

外国書籍及び定期刊行物の輸入承認に対する担保率引下げに関する請願書

海外出版物輸入同業会  
理事長 司 忠

通商産業大臣 石橋湛山殿

請願事項

外国書籍及び定期刊行物の輸入承認に対する担保率は、昭和29年4月から25%に引上げられ、現在においても「官公署教育機関等購入書籍等輸入担保比率の確認」を受けたものを除いては、25%であります。これを昭和29年1月以前の1%乃至5%に改訂されます様、左記事

情御斟酌（しんしゃく）の上特別の御取計い被下度（くだされたく）請願致します。

理由——第2回分とはほぼ同じにつき省略——

上述の理由により、昨年7月担保率引下げの請願書を提出致しましたが、幸に御理解を賜り、11月輸入注意事項29、第38号を以て「官公署教育機関等購入書籍等輸入担保比率確認書」の手続が発表されました。この手続は当時の情勢に鑑み、洵（まこと）に機宜を得た唯一の救済策には相異ありませんが、その特典は官公署教育機関等の需要の一部に対するものに限られ、諸会社、工場、研究所、病院、教授、研究者等の民間需要に対しては、之に浴することが出来ず、依然として25%の担保率が課せられている状態であります。しかも近時民間における研究熱は、原子力（注参照）を例に取りましても益々旺盛になっております。

就きましては、漸増するこれ等の民間需要及び確認を得難き官公署教育機関等の需要にも特に御考慮を賜り、この際担保率を昭和29年1月以前の率、即ち1乃至5%程度に引下げられますよう格別の御処置の程業界を代表しまして衷心かつ切に御懇願申し上げます。（以上）  
（注）昭和30年12月、原子力基本法公布

### 42.11 一般担保率引下げ運動経過の説明

昭和30年4月1日付、海輸第100号では、同業会会員に対し次のように運動経過を説明している。

記

かねて御承知の通り、担保金の引下げの運動については、別紙の如き請願書を通産大臣宛に提出、折衝中であります。

生憎総選挙があり、内閣改造があり（注参照）、又3月になってからは担当の輸入課長に取込み等ありまして、未だ交渉の過程を出ておりません。

しかし一方側面運動として伝手を求め、通産省政務次官島村一郎氏、並に予算委員長牧野良三氏両氏に事情を

陳情し、鋭意貫徹につとめておりますから、各位におかれても可及的御協力の程をお願い申し上げます。(以下略)

(注)昭和29年12月 第1次鳩山内閣成立

昭和30年3月 第2次 //

昭和30年4月 初の統一地方選挙

#### 42.12 一般担保率も3%に引下げ実現

昭和30年(1955)4月4日付の通商弘報で、「4～9月外貨予算による第2回輸入公表(自動承認制)発表」がなされ、4月7日より適用として、輸入担保率が3%に引下げられることとなった。

思えば昭和28年2月のA・A停止の際に、輸入担保率が5%に上げられたことに端を発して、遂にそれが25%にまで達したことに對し、昭和29年2月から始まった担保率引下げの運動は、延延1年3ヵ月をかけて展開され、やっとのことで一応の成果を得たこととなる。

ただしこの時も、すんなりと3%に引下げになった訳ではなく、4月4日付海輸第103号では、引下げを喜んだ上で次のように記している。

#### 記

—— 前略 ——

就きましては、3%への引下げ決定に当りまして、通産省及び大蔵省において不要不急品の輸入の件が大部分問題になった模様であります。大乗的見地から英断を下された由につき、少くとも当会会員は自粛自戒し、当局の御趣旨に添い、同種のものの輸入を極力控える様くれぐれも御願ひ申し上げる次第であります。

—— 後略 ——

そしてこの時に、学校官庁等の購入に対する1%の適用はそのまま続行されると発表されたが、或はこれは廃止になるかも知れないとつけ加えている。

なお、この3%へ引下げの発表のあった後、同業会会員から理事会に対してお礼の手紙などが寄せられているが、関西支部の丹羽氏からも4月5日付の関西支部発405号で、「担保率引下げに関しては、各位の御尽力によりこの好結果を得られたものと存じ、大変感謝しております。同業者各位も御安心されましたことと存じ、御同慶に存じます。……」という趣旨の手紙が寄せられている。当

時の皆の喜びようが目に見えるようである。

以上、外貨が豊富となった最近では考えられないような事態であったが、当時の日本の実情を伝える典型的な出来事として、少少詳しく記述した次第である。

蛇足ながら、この担保率引下げの実現には後日談がある。それは担保率が下ったのだから輸入書の価格も下げべきだという意見が、通産省や需要者の中から出てきたことである。これには「担保金引上げの際には我慢に我慢を重ねて値上げをしなかったのであるから」という理由で対処している。

#### 43 昭和28年(1953)後半から昭和29年(1954)にかけてのその他の出来事

昭和28年後半には「その他の出来事」としては特記すべき事項がない。昭和29年について2～3を取り上げて見よう。

##### 43.1 通産省書籍担当官の交代

昭和29年4月16日の懇談会には、輸入再開以来何かと世話になった通産省の書籍担当官の平井福太郎氏(東京外語出身)と村山氏とが、鈴木氏及び岩田氏と交代になったので、新旧両事務官をお招きして色々とお話を伺うこととしたいと、4月10日付で会員に通知が出ている。

平井氏と村山氏には、民間貿易再開以来、幾多のう余曲折を経た洋書輸入について指導を受けた。当時は今日の実態とはかけはなれた窮屈な貿易であり、それだけに貿易管理が嚴重であった。この間通産省の書籍担当官として深い理解を示し、堪能な語学を駆使しつつ、業界の懇談会に気軽に出席して質疑に応ずるなどのことがあり管理と業界の主張との接点を見出すべく努力を惜しまなかった点、当時の同業会会員の印象に残る御両所であった。

##### 43.2 海外出版物の販売価格

昭和29年11月当時の海外出版物の販売価格について、某社の一例が残されているので次に記録しておこう。

| 通貨    | 書籍    | 雑誌        |
|-------|-------|-----------|
| US\$  | 420円  | 430円      |
| St. £ | 1,200 | 1,260     |
| DM    | 100   | 110       |
| F. Fr | 1.30  | 1.30～1.50 |

### 43.3 海外出版社からの来日

昭和29年4月16日の同業会懇談会には、西ドイツのURBAN & SCHWARZENBERG社のOtto Schaefer氏と、英国のPITMAN社のPeter Pitman氏を招いて懇談をしている。

Schaefer氏は戦前に一時神戸に住んでいたことがある由で、片言の日本語が出来た。戦時中にドイツの潜水艦に塔乗して日本に来たこともあるとのこと。温厚かつひょうきんで毎年のように来日し、支払いの催促は「オカネ、オカネ」といい、「チカイウチニメシヲクイマショウ」が口癖であった。そのうちに来日しなくなったと思っていたら病床に伏しているとの話が伝わり、やがて亡くなったとのことである。海外出版人の中での名物男であった。

Peter Pitman氏は、英国のPitman社のSir Issac Pitmanの子息である。当時は大変若かった。

昭和29年5月28日の定時総会のあとの懇談会には、英国スコットランドのWILLIAM COLLINS社のR. H. Stevens氏を招いた。同氏は、ロイド眼鏡をかけた温和な紳士で、長い間毎年来日していた。ゆっくりと話をし、スコットランドをこよなく愛していた人である。そのうちに隠退をするのでこれで最後の来日ということがあり、一夕ゆっくりと飲んだ記憶がある。(この項、田辺寛氏、日賀村山社長のお話を伺いました。) (続く)

## よこめし・たてめし (11)

「<sup>††</sup>噉る」ということは、椀などの食器を手にとって直接口にはこぶ喰べかたや、あるいは多少は解剖学的にみた我々日本人の口唇の形状によっておこるものと思われる。しかし、それらに増して最大の要因は、それが「社会的に容認されている」ということにあるのではなからうか。いちばん端的な例をあげれば、「そばは音をたてて喰べるもの」というような通説である。これは全く個人的な私の見解なのだが、音をたてて喰べる「そば」のその音は「ツルツル」であって、決して「ズルズル」や「ゾロゾロ」ではないと思う。ところが、カップラーメンで育ったような若い落語家が「仕方<sup>しかた</sup>咄<sup>ばなし</sup>」で、すさまじい音をたててそばを喰べる。それを見た半可通が、さらにボリュームをあげて噉ることになると、これはまことに近所迷惑な話といわねばならない。

あれは「そば」を喰べるところを眼で見ていると、そう気にならないものなのだが、そうでない場合、た

とえば自分の後ろの席から壮烈な音がきこえたりすると、一寸眉をひそめたくなる。(これは多分に個人的な好き嫌いの問題になるかもしれないが。)

「そば」はさておき、スープやコーヒーは静かに飲んで欲しいと思う。そう書きながら、食事の時に音を立てるな、という「さだめ」は、そもそもどこから来たのか、と一寸考えこんでしまう。

「あんたたちが望むのは、せいぜい、われわれが、あんたの銀器や陶器を使って、あんたのテーブルに坐るのを許すことだけだ。もしわれわれが、あんたたちの流儀に従って食事のマナーを身に着けたら、あんたたちは親切にもテーブルにとどまってよいと言うだろう。われわれはテーブルの上を一掃したい。ここはアフリカ人のテーブルだ。われわれは自らの権利に基づいてテーブルにつくのだ。」(「遠い夜明け」の中で、黒人の新聞記者マベトラがいう言葉)。(つづく)

# コミュニケーション国際百科事典、全4巻

## INTERNATIONAL ENCYCLOPEDIA OF COMMUNICATIONS

全4巻、2,000p. 8 1/2 × 11 インチ

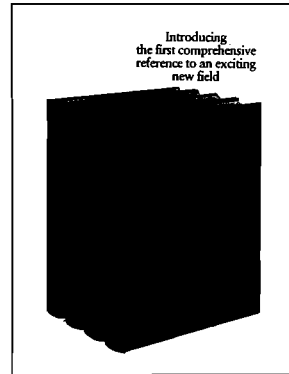
写真650点、図解400点、地図35点、図表30点を収録

1頁2段組、背綴じ製本、堅牢バックラム装丁

1989:1 全4巻同時刊行予定

ISBN 0-19-504994-2(set) 予定価 ￥70,000

(Oxford U.P., NY) —US—



人間同士の伝達（コミュニケーション）を、現代の諸科学のさまざまな観点から見直し、解説する学際的な百科事典が出版されます。

本百科事典は、オックスフォード大学出版局（ニューヨーク）が研究・編集に6年あまりの年月をかけ、完成させたものです。執筆には、世界29ヵ国より選ばれた約450人の学者および専門家があたり、アルファベット順に収録された550項目の記事は総て署名入りです。

本百科事典で最も大きな特色は、ラジオ、テレビ、映画、ジャーナリズムなどの狭い意味でのコミュニケーションばかりでなく、下記のようなさまざまな分野とコミュニケーションの関わりについて解説している点にあります。

コンピュータ：人工知能から謀報活動まで、テレコミュニケーション・ネットワークから電子音楽まで、コンピュータの発展と社会および個人の生活の変化に関する約30項目を収録。

教育：J. デューイ、E. デュルケム、H. ケラー、ピアジェ、N. ウェブスター等の人物解説に加えて教育活動、教育の維持、教育機関（施設）の3つの観点からの解説約35項目。

歴史：古代における伝達に関する20項目を収録。

政治：コミュニケーションに関わる政府の規制について、約25項目を収録

その他、社会学、人類学、政治学、心理学、歴史、法律、芸術、音楽、文学、言語学、科学および工学、宗教、哲学などの分野におけるコミュニケーションとの関わりについて、さまざまな角度からの解説を収録します。また、一般的なコミュニケーション理論と研究についても十分にページをさいています。

新しい視点からのユニークな百科事典として広くみなさまにおすすめ致します。



日本総代理店

株式会社 紀伊國屋書店

(新館) ☎156 東京都世田谷区桜丘5丁目38番1号 ☎(03)439-0161

電話問合先  
仕入流通本部・卸部  
(03)439-0128

1988年12月 通巻第260号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室

☎271-6901 FAX.271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル

☎371-5329